



令和4年(2022年)5月13日(金) No. 3

沖縄平和学習 ~ガマ追体験について~

5/15(日)に迫った修学旅行の、初日の平和学習で訪れるガマ追体験について学習しました。戦争の恐ろしさ、平和の尊さを学ぶ上でとても大切な行程の1つです。

みんなの感想をしっかり読んで、意識を持ってガマ追体験に臨んでほしいと思います。

当時の状況を一番近くに感じられる体験だと思う。だからこそ、自分がココにずっといて、アメリカ兵に殺されるかもしれないという恐怖感を常に持っているという状況をイメージするというか感じようとしていると思う。今と昔では全然状況が違うけど、かつて負傷者がたくさんここにいたとか、静けさとか最大限のものを吸収したい。

戦争中、ガマに避難している人がいたということを考え、落ち着いた気持ちでガマに入る。ふざけたり、うるさくしないで、黙って静かに、戦争中にどんなことがあったなど、今まで習ってきたことなどを思い出す。

当時の沖縄の人々がどんな思いでガマに入っていたか想像するだけでもつらくて悲しい。でも修学旅行において見学させてもらえるのは貴重なので、しっかり記憶に残したい。きっと習ったこと以上に悲惨なことがあり、私たちもそれを知ること新しく平和をつないでいけると思う。私はガマ見学で、色々なことを学びまた未来へと活かしたい。ガマに入っていた当時の人たちはどのような思いでそこにいたのかを考えながらガマに入ろうと思った。周りにはあまり戦争を体験した人がいないから唯一地上戦が行われたこの場所でどれだけ戦争が恐ろしいものだったのかを考えながら入りたい。

過去、沖縄人が1000人以上が入れるガマなので相当広そうだと思います。ゴツゴツした岩がたくさんありそうなので、怪我をしないかが心配です。轟壕は絵を見る限り内部に川が流れているそうなので、川がどれくらい広いかを確認したい。

今はまだ、映像や授業でやった戦争が本当に起こっていたという感覚がなくて、昔のこととしか思っていないから本当にあんなに酷いことが起きていて味方である日本兵も住民を殺してまで助かろうとしたほどの恐怖があったということを知ろうとしながらガマ見学をしたい。自分が体験した訳ではないけど、また戦争が起こってしまったら勉強してきたことを世界中の人に伝えていきたい。

入ったガマが、昔命を落としたりした人がいるガマだということを思って入る。戦争中に実際に使われたガマだから自分がもし戦争中に生きていたらこんなガマで真っ暗で過ごすんだということをよく観察したい。アンディラ壕で、「日本兵が住民を虐待した」とあるように日本 VS アメリカだけじゃなくてガマにいた住民の人たちもひどい体験をここでしたんだなと思い出しながらいく。アンディラ壕で長時間働いた自分と同じ年の子や小さい子がいた場所だから実感しながら行く。授業の映画でみたような場面を思い出して、そこで何が起こったか考える。歩く道などどれだけ不便か、それがどれだけ良いのか当時の人がどう思っていたのか考える。

沖縄の住民がなにもしていないのに爆弾や銃でたくさんの人がガマで亡くなって少しでも生き延びるためにガマの中に入ったのに無抵抗の沖縄の住民がガマの中で死んでいく姿を思い浮かべないが、それを考えながら自分もガマの中に入りたいたいと思いました。ガマに入るのは授業の一つで真剣に取り組みたいと思いました。

かつてこの場所が避難所として使われていた当時のことを思い浮かべながら見学したい。半端な気持ちでガマに入らないようにする。ガマに入るのは初めてだからワクワクする所もあるかも知れないけれど、失礼のないようにしたい。ガマに入って当時の状況を思い浮かべ、改めて戦争の恐ろしさ、平和の大切さをその場で感じたいです。

実際に沖縄戦が行われた時に、住民が避難場所として使っていた場所はすごく怖いところだと思うけど、当時そんな暗いところで過ごしていたのだと考えると当時の人たちは、すごく怖い思いをしていたと思うのでそんな気持ちで入りたい。戦争が行われていた当時、生きられる場所がこのような洞窟だったのだと知り、小さい子もいたと思うのにすごいなと思ったからそんな苦しい状況に耐えていた人々を思ってガマにいきたく思った。

戦争は昔あったという認識があるけど、よくよく考えると戦争が起きてからまだ80年弱しか経っていない。数字に表すとつい最近のように感じられるこの戦争で、沖縄ではたくさんの方がガマという暗くて狭い空間に大勢で息をひそめていたと考えると、本当に恐ろしい戦争だったのだなと感じる。だから、ガマを、ちゃんと見学して、しっかりと学びたい。